

ブドウのクビアカスカシバ防除対策の確立

ブドウの幹に食入するクビアカスカシバの被害は、粗皮はぎの実施、スタークル顆粒水溶剤（ジノテフラン水溶剤）の樹幹塗布剤処理、光反射資材の株元被覆を組み合わせることで防除できる。

成果の内容

- 1 スピードスプレーヤー（以下、SSと略）による薬剤散布時に、両サイド最下端ノズルの穴径を大きくし、角度を下方に向けること（以下、改良SSと略）により、薬剤を被害を受けやすい主幹株元へ付着させることが可能となる（表1）。
- 2 クビアカスカシバの幼虫（図1）は、冬季に粗皮はぎを実施した後に薬剤散布すると、薬剤散布のみと比べ被害痕数、幼虫数ともに少ない（表2）。
- 3 コナカイガラムシ類との同時防除としてスタークル顆粒水溶剤（ジノテフラン水溶剤）を6月20日頃に1樹当たり40gの薬剤を同量の水40mlで希釈して刷毛で樹幹部に塗布する（粗皮はぎ後1回塗布）と、被害痕数、幼虫数が無処理樹に比べ少ない（表3）。
- 4 光反射資材ネオポリシャインクロスT87（幅1.5m×長さ50m×厚さ0.1mm）でブドウ樹の株元地表面（約3.0m幅）を成虫の産卵行動開始前（山口県では5月下旬まで）に被覆する（図2）と、被害痕数は無被覆の1/3以下に抑えられる（表4）。
- 5 生物農薬バイオセーフ（スタイナーネマカーポカプサエ剤）10gを25Lの水で希釈し、主幹の虫糞が見られる所（幼虫食入部）を中心に散布すると、散布8日後には虫糞排出部位の数が約1/8に減少し、防除効果が認められる（表5）。
- 6 成果を組み合わせた総合防除（粗皮はぎ実施、スタークル顆粒水溶剤（ジノテフラン水溶剤）の樹幹塗布剤処理、光反射資材被覆）は、慣行防除（粗皮はぎ実施、改良SSでパダンSG水溶剤（カルタップ水溶剤）1回散布）に比べ被害痕数、幼虫数共に少なく、高い防除効果が認められる（表6）。

成果の活用面・利用上の留意事項

- 1 成果を組み合わせた総合防除の資材費は、10a当たり換算で16,072円となる（表7）。
- 2 スタークル顆粒水溶剤（ジノテフラン水溶剤）の樹幹塗布は、ブドウのコナカイガラムシ類で登録がある。
- 3 バイオセーフ（スタイナーネマカーポカプサエ剤）は果樹類のコスカシバで登録がある。

具体的なデータ



図1 クビアカスカシバ幼虫（ブドウの幹に食入） 成虫（鳥取大学 中秀司氏撮影）

表1 SS散布による薬剤の付着状況(感水紙調査)

	主幹株元	主幹上部
改善散布	10.0	10.0
慣行散布	4.7	10.0

注1)表中の数字は付着度指数

表2 粗皮はぎ+薬剤散布のクビアカスカシバに対する防除効果

	被害痕数	幼虫数
粗皮はぎ樹	4	2
無処理樹	30	25

注1)被害痕数、幼虫数は7/19~10/1の8回調査合計値

注2)6/13パダンSG水溶剤(カルタップ水溶剤)、7/31フェニックス水和剤(フルベンジアミド水和剤)散布

表3 樹幹塗布剤処理のクビアカスカシバに対する防除効果

	被害痕数			幼虫数		
	幹	枝	合計	幹	枝	合計
処理樹	0	7	7	0	4	4
無処理樹	23	18	41	15	7	22

注1)6/19に供試薬剤40g/樹を水40mlに混合し、樹幹部に刷毛で塗布した。

注2)被害痕数、幼虫数は7/14~8/25の5回調査合計値

注3)幹は樹幹部、枝は主枝部の被害

表4 光反射資材株元地表面被覆のクビアカスカシバに対する防除効果

	被害痕数			幼虫数		
	幹	枝	合計	幹	枝	合計
被覆区	2	22	24	1	12	13
無被覆区	23	63	86	13	38	51

注1)被害痕数、幼虫数は7/14~10/9の9回調査合計値

注2)幹は樹幹部、枝は主枝部の被害

表5 バイオセーフ(スタイマーネマカーボカプサエ剤)散布後の食入部位からの虫糞排出状況

	9月5日	9月9日
虫糞排出している被害痕数	5	1
虫糞排出か所率(%)	62.5	12.5

注1)9月1日に、2500倍希釈液を400~500ml/被害痕の割合で電動噴霧機を用いて幼虫食入部に散布した。

注2)被害痕は3圃地において8被害痕調査した。

表6 総合防除のクビアカスカシバに対する防除効果

	被害痕数			幼虫数		
	幹	枝	合計	幹	枝	合計
総合防除区	0	6	6	0	3	3
慣行防除区	60	35	95	37	15	52

注1)被害痕数、幼虫数は7/2~10/16の11回調査合計値

注2)幹は樹幹部、枝は主枝部の被害

表7 総合防除における10a当たり資材費

資材名	規格	数	価格(円)
ネオポリシャイン	幅1500mm×長50m×厚0.1mm	2.7本	11,340
黒丸君(マルチ押さえ)	長20cm	219本	2,332
ジメフラン顆粒水溶剤	500g	320g使用	2,400
合計			16,072

注1)ネオポリシャイン及び黒丸君は耐用年数3年として換算



資材はブドウ樹の両側から約15cmの重なり幅で設置し、マルチ押さえで固定する。

図2 光反射資材設置方法

関連文献等

- 1 パダンSG水溶剤によるブドウのクビアカスカシバの防除対策 (2011 岡山県 研究成果情報)
- 2 ブドウの枝幹害虫クビアカスカシバに対するフルベンジアミド水和剤の防除効果 (2013 秋田県 研究成果情報)

研究年度	平成25年~27年
研究課題名	ブドウのクビアカスカシバの防除対策の確立
担当	農業技術部資源循環研究室 河村俊和(現 柳井農林事務所)